

2022年10月26日
株式会社ロイヤリティ マーケティング

Pontaリサーチ会員3,000人に聞いた
第55回 Ponta消費意識調査 2022年10月発表

冬のボーナスの使い道、9年連続「貯金・預金」が1位
～ 物価上昇により、昨年と比べて「貯金額を増やす」人は、若い年代ほど増加 ～

共通ポイントサービス「Ponta（ポインタ）」を運営する株式会社ロイヤリティ マーケティング（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：長谷川 剛、以下「LM」）は、消費者の意識とポイントの利用意向を把握するため、「第55回 Ponta消費意識調査」を「Pontaリサーチ」にて2022年9月27日（火）～9月29日（木）に実施いたしましたので、ご報告いたします。

注目トピック

冬のボーナスの使い道

<消費者意識>

- **冬のボーナスの使い道（P.2）**
 - 冬のボーナスの使い道、9年連続「貯金・預金」が1位。「食品（ふだん食べるもの）」は過去最も高い5.6%
- 物価上昇による、冬のボーナスの使い道の変化①（P.3）
 - 物価上昇により、昨年と比べてボーナスの「使い道に変化がある」は約6割
- 物価上昇による、冬のボーナスの使い道の変化②（P.4）
 - 物価上昇によるボーナスの使い道の変化は、1位「貯金額を増やす」、2位「生活費に充てる金額を増やす」
- 冬のボーナスの支給額と貯金・預金の割合（P.5）
 - 「20万円～40万円未満」が24.8%で最多。「40万円～60万円未満」が21.3%で続く。
冬のボーナスの支給金額の75%以上を「貯金・預金」したい方は、約3割

<節約志向>

- 消費者の節約志向（P.6）
 - 「節約したい」派は65.1%となり、前回調査より1.7ポイント減少

<ポイントサービスの利用意向>

- ポイントの活用意識と節約志向（P.7）
 - 「節約したくない」派では、「分からない・決まっていない」が44.9%と最も高く
「節約したい」派では、「いまつかいたい」が47.2%と最も高い。
「節約したい」派に高いポイント活用意識がうかがえる

<調査概要>

調査方法：インターネット調査
調査期間：2022年9月27日（火）～9月29日（木）
パネル：「Pontaリサーチ」会員（Ponta会員で「Pontaリサーチ」への会員登録をいただいている方）
回答者数：3,000人 男性、女性×年代別（20・30・40・50・60代以上）の各10セルで300サンプル
※調査結果は小数点第2位を四捨五入しています。

<引用・転載の際のクレジット表記のお願い>

調査結果引用・転載の際は、「「Pontaリサーチ」調べ」とクレジットを記載していただきますようお願い申し上げます。

＼ LMは、「Ponta」の「便利・おトク・楽しい」世界が、いつでもどこでも広がる生活密着型サービスを提供しています ／

消費者意識

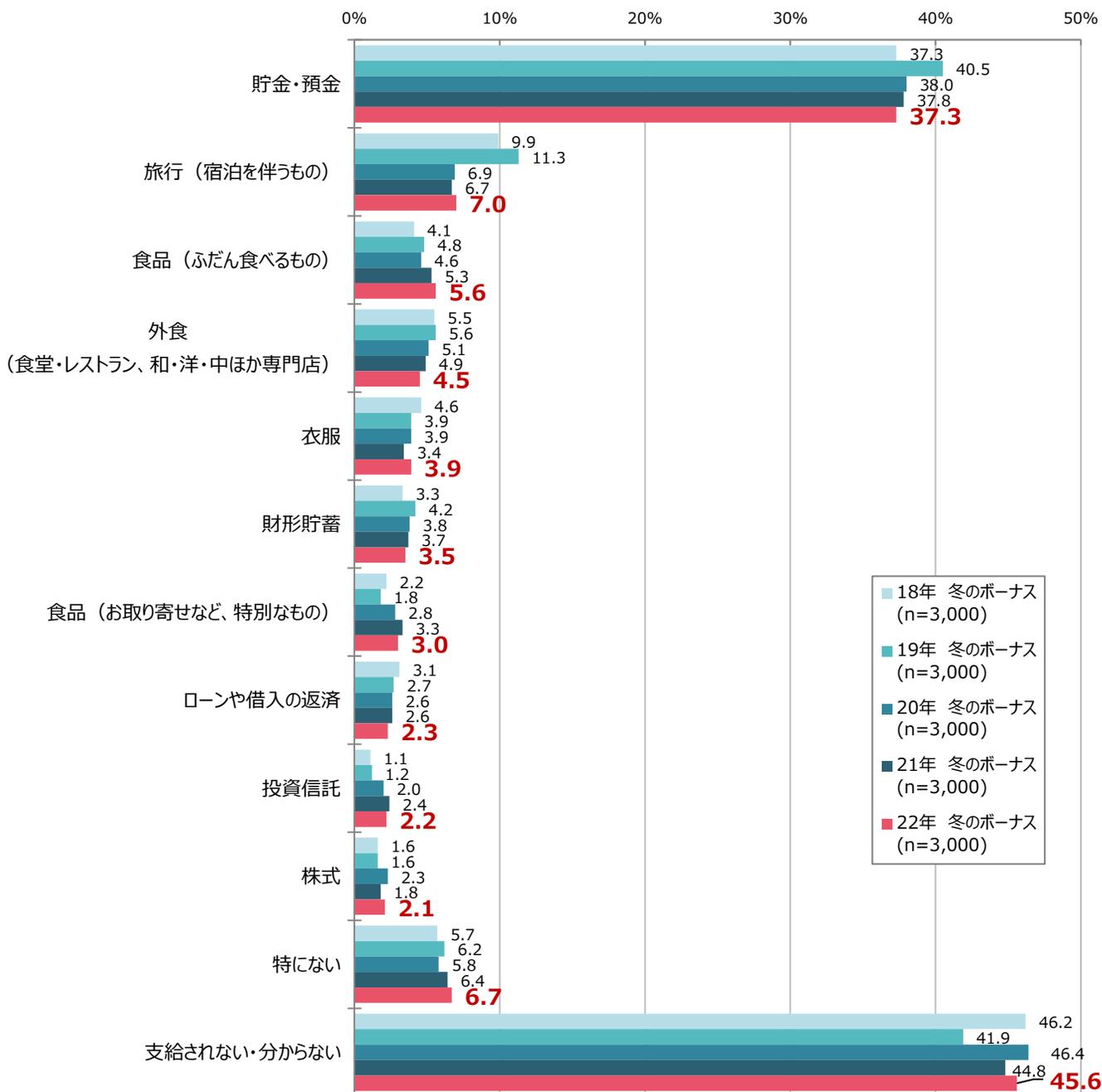
冬のボーナスの使い道

冬のボーナスの使い道、9年連続「貯金・預金」が1位。「食品（ふだん食べるもの）」は過去最も高い5.6%

- ・今年の冬のボーナスの使い道について、9年連続で「貯金・預金」が1位となった。次いで、2位「旅行（宿泊を伴うもの）」、3位「食品（ふだん食べるもの）」が続いた。「食品（ふだん食べるもの）」は過去最も高い5.6%となった。
- ・昨年、2014年の調査開始以降で初めてTOP10入り（9位）した「投資信託」は、今回も9位となった。

■今年の冬のボーナスの使い道を教えてください。（3つまでの複数回答）

※今回調査で上位10項目を抜粋（「特にない」「支給されない・分からない」を除く）
 ※回答が同数で順位に差がある場合は、小数点第2位以下に差があるため
 ※2014～2017年の冬のボーナスに関する調査結果は、こちらからご確認ください（<https://www.loyalty.co.jp/news/2019103001>）



消費者意識

物価上昇による、冬のボーナスの使い道の変化①

物価上昇により、昨年と比べてボーナスの「使い道に変化がある」は約6割

- ・最近の物価上昇を受け、今年の冬のボーナスの使い道に変化があると回答したのは、全体で57.9%となった。
- ・年代別で見ると、年代が低いほど、変化があると答えた割合が高く、20代が66.6%だった。60代以上（41.2%）と比べると、25.4ポイント高かった。

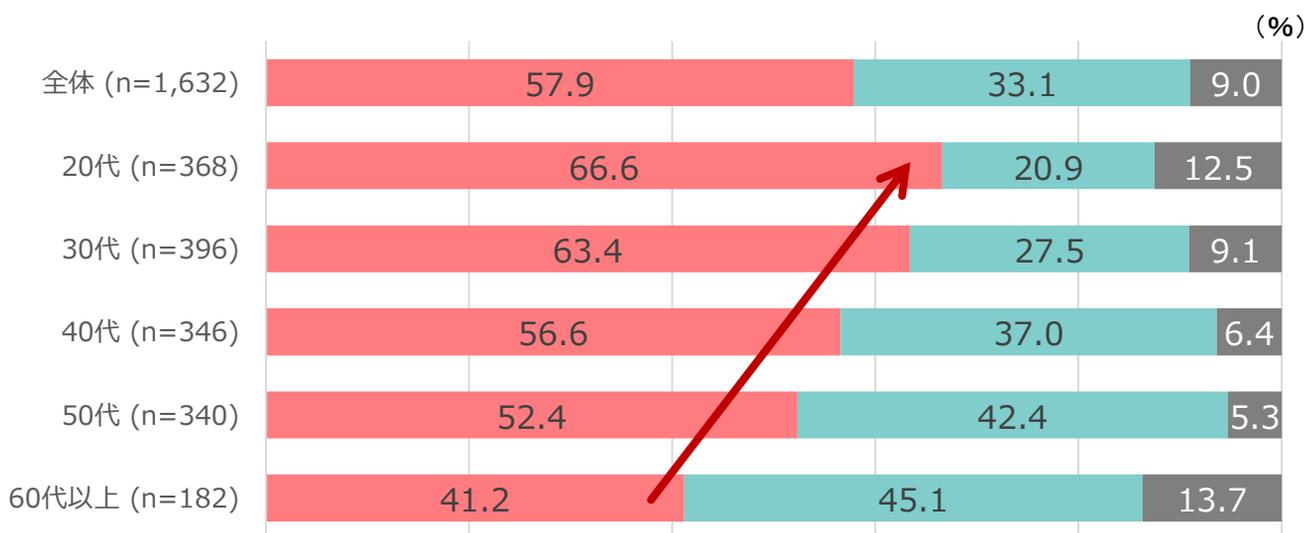
■最近の物価上昇を受けて、あなたの今年の冬のボーナスの使い道に変化はありますか。

■ 昨年の冬のボーナスと比較してお答えください。（いくつでも）

今年の冬のボーナスの使い道に「支給されない・分からない」を選んだ方以外が回答。

※「使い道に変化がある」は、「使い道に変化はない」「昨年はボーナスがなかった」を除く、P.4の選択肢を一つでも選んだ方を集計。

■ 使い道に変化がある ■ 使い道に変化はない ■ 昨年はボーナスがなかった



消費者意識

物価上昇による、冬のボーナスの使い道の変化②

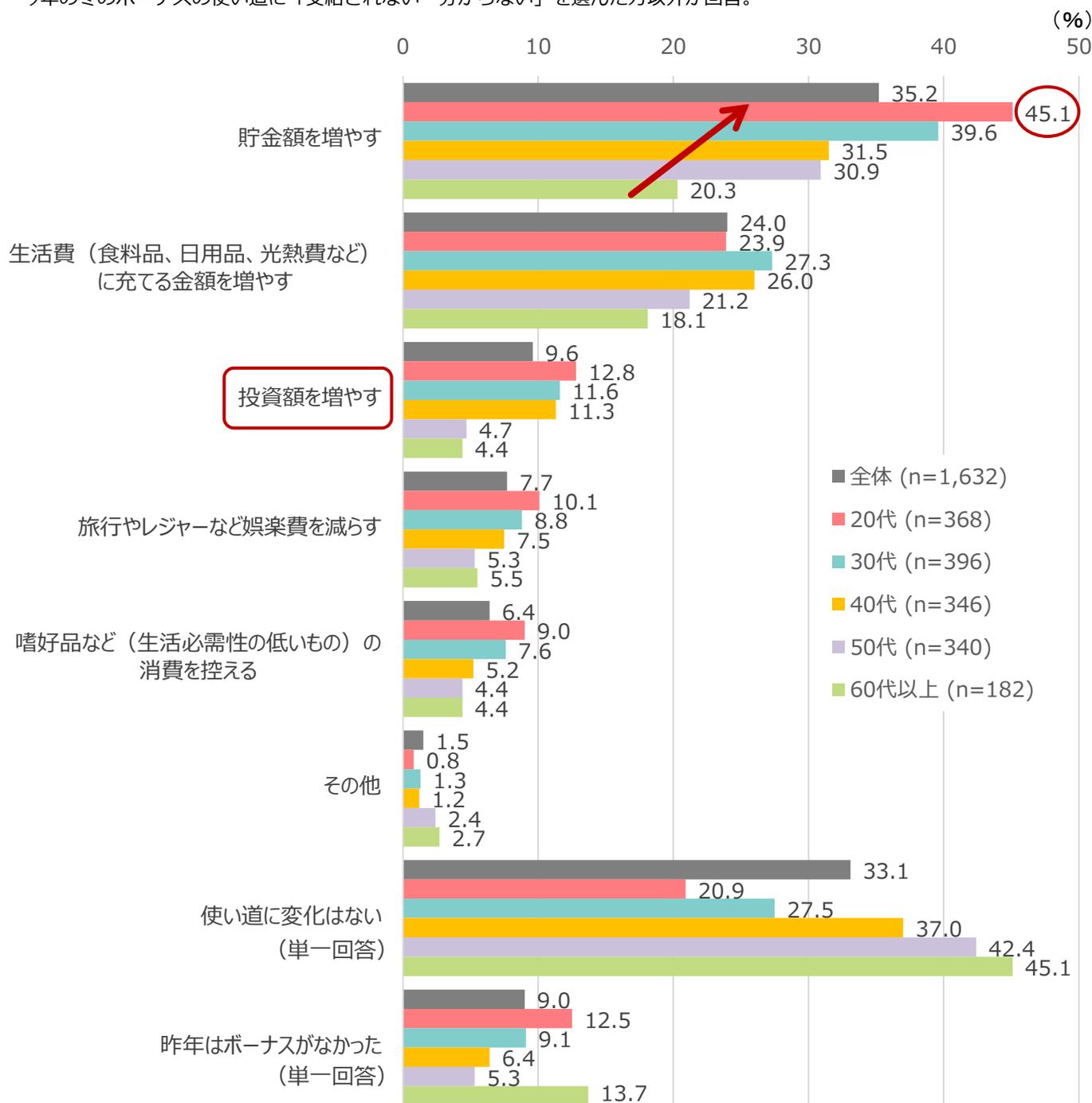
物価上昇によるボーナスの使い道の変化は、1位「貯金額を増やす」、2位「生活費に充てる金額を増やす」

- ・ボーナスの使い道の変化として、全体で最も高かったのは「貯金額を増やす」で35.2%。次いで「生活費に充てる金額を増やす」24.0%となった。
- ・年代別でみると、「貯金額を増やす」において若い年代ほど高く、20代で45.1%となった。また、20～40代は、50～60代以上と比べて「投資額を増やす」が高い傾向がうかがえる。

■最近の物価上昇をうけて、あなたの今年の冬のボーナスの使い道に変化はありますか。

昨年の冬のボーナスと比較してお答えください。（いくつでも）

今年の冬のボーナスの使い道に「支給されない・分からない」を選んだ方以外が回答。



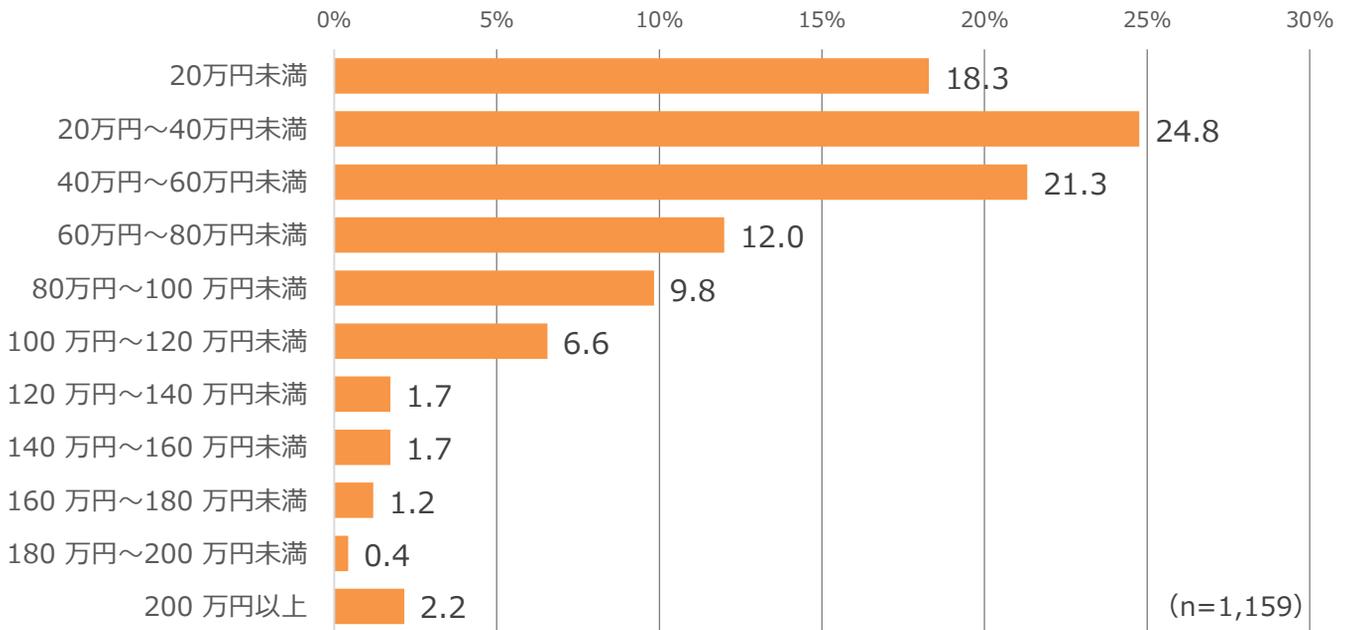
消費者意識

冬のボーナスの支給額と貯金・預金の割合

「20万円～40万円未満」が24.8%で最多。「40万円～60万円未満」が21.3%で続く。
 冬のボーナスの支給金額の75%以上を「貯金・預金」したい方は、約3割

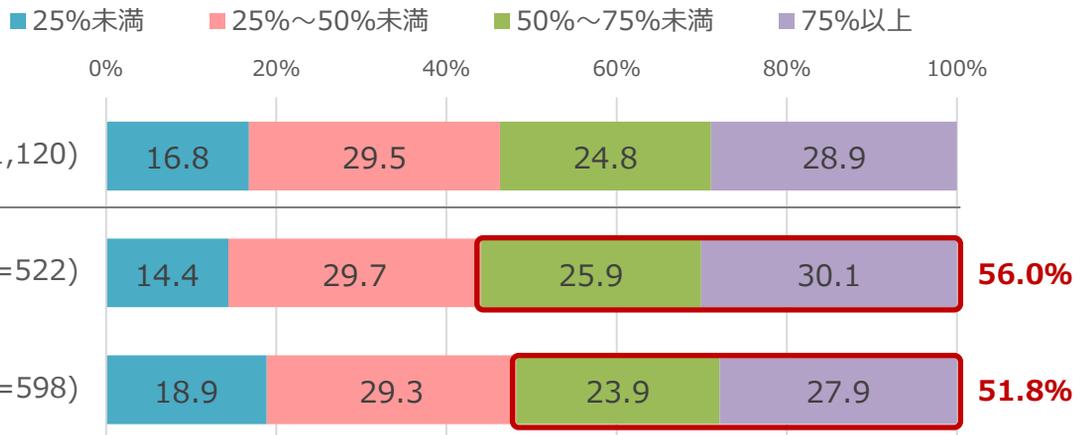
- 冬のボーナスを「貯金・預金」したい方に、支給金額のうち貯金・預金したい額の割合を聞くと、「75%以上」は28.9%となった。
- 今年のボーナスの使い道で昨年と比べて貯金額を増やす方と、そうでない（貯金額を増やすと回答していない）方の貯金額の割合を比較した。
 支給金額の半分以上を「貯金・預金」したいという回答は、「貯金額を増やす」派は56.0%、「そうでない」派は51.8%となった。

■あなたもしくは家族にボーナスが支給される場合、今年の冬のボーナスの金額(世帯あたり)を教えてください。これから支給される場合は、想定される金額を教えてください。(単一回答)
 今年の冬のボーナスの使い道に「支給されない・分からない」を選んだ方以外が回答。
 ※本設問で金額を回答した方を抜粋。(「分からない・答えたくない」と回答した n=473 を除く)



■支給される金額のうち、どの程度貯金・預金したいか、お答えください。(単一回答)

今年の冬のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方のみ回答。
 昨年のボーナスと比べた使い道の変化で、「貯金額を増やす」と回答した方と、そうでない方で集計。



節約志向

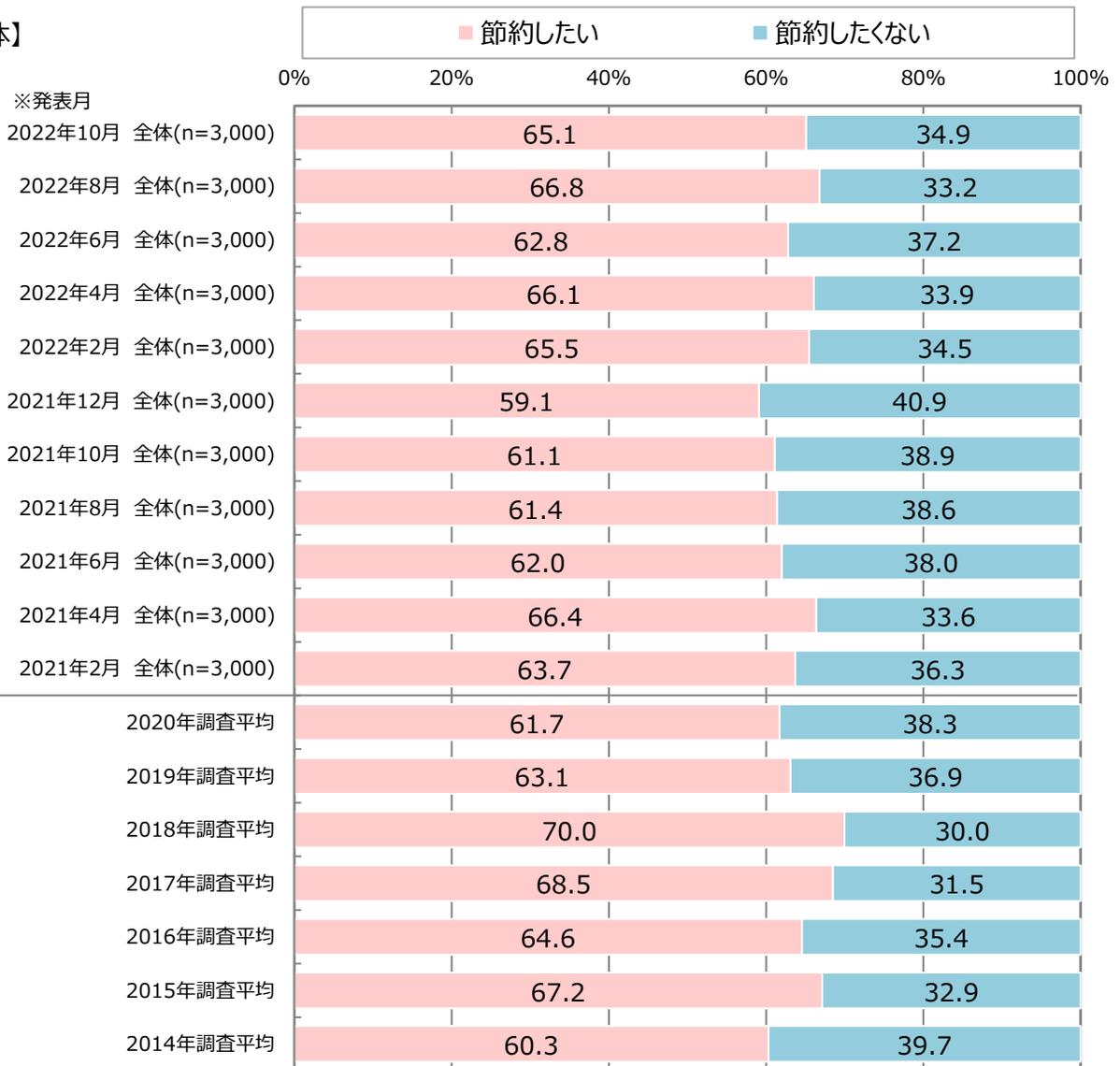
消費者の節約志向

「節約したい」派は65.1%となり、前回調査より1.7ポイント減少

・今月の家計の支出を節約したい金額に1円以上を回答した「節約したい」派は、65.1%となった。

■今月の家計の支出を節約したい割合

【全体】



・節約したい…節約したい金額が1円以上
 ・節約したくない…節約したい金額が0円

【参考】 <設問> あなたは、今月の家計の支出をどのくらい節約したいですか。（半角数字で入力）
 ※とくに節約したいと思わない人は「0」と入力してください。

※2014年調査平均は4～12月の偶数月5回分、その他の年ごとの調査平均は2月～12月の偶数月6回分の平均です。
 各調査n=3,000、2014年4月調査のみn=3,013です。

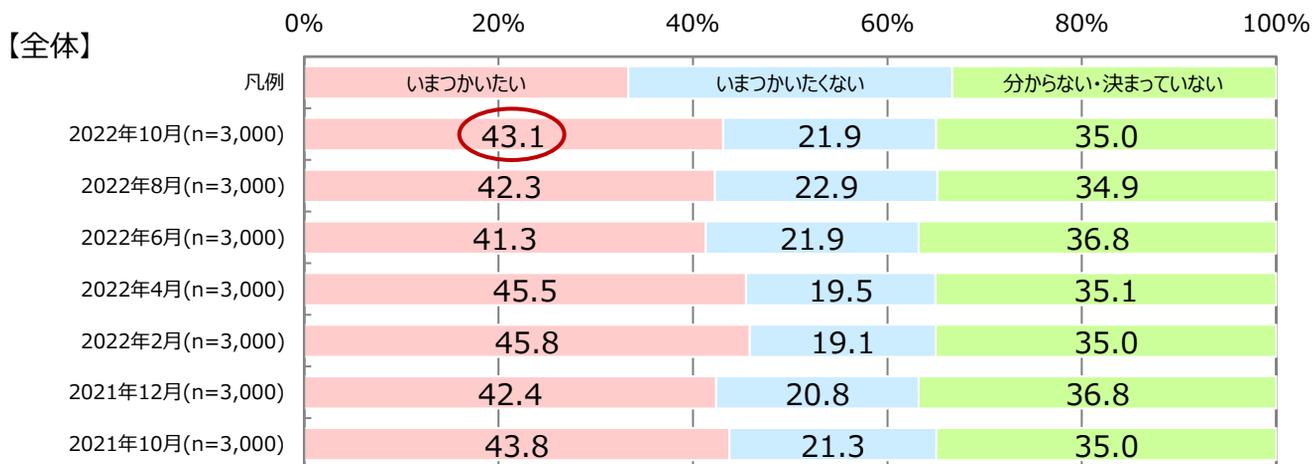
ポイントサービスの利用意向

ポイントの活用意識と節約志向

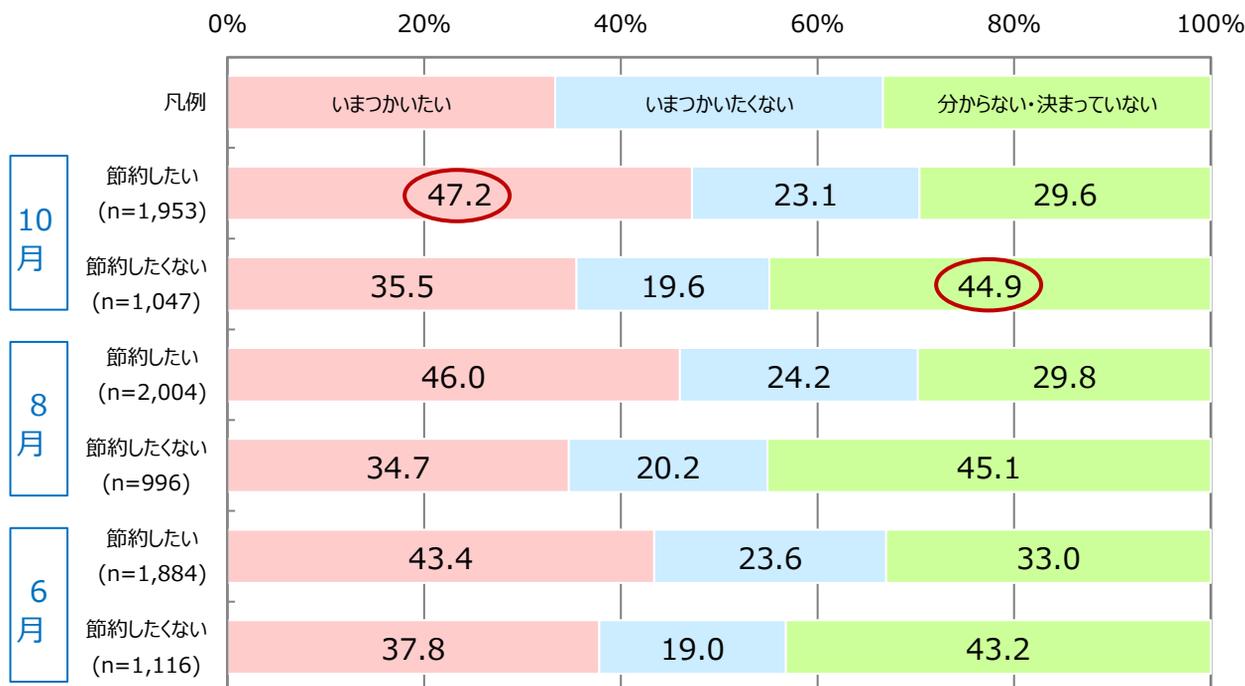
「節約したくない」派では、「分からない・決まっていない」が44.9%と最も高く
 「節約したい」派では、「いまつかいたい」が47.2%と最も高い。
 「節約したい」派に高いポイント活用意識がうかがえる

・いまPontaポイントをつかいたいかについて、全体で「いまつかいたい」が最も高く、43.1%となった。

■あなたはいまPontaポイントをつかいたいですか。（単一回答）



【節約志向の有無別】（2022年6月～2022年10月調査）



参考

「Pontaリサーチ」コンサルティング・リサーチチーム 見解

— 今年の冬のボーナスの使い道は、9年連続1位「貯金・預金」

Ponta消費意識調査では、2014年より毎年、冬のボーナスの使い道について調査しています。2022年は、食品の価格や燃料費、電気料金など、生活に欠かせない物価の上昇が相次いでいます。そこで、今年の冬のボーナスの使い道調査では、物価上昇をうけ、昨年と比べてボーナスの使い道に変化があるかについて聴取しました。

今年の冬のボーナスの使い道は、**1位「貯金・預金」(37.3%)**、**2位「旅行(宿泊を伴うもの)」(7.0%)**、**3位「食品(ふだん食べるもの)」(5.6%)**となりました。「貯金・預金」は2014年の調査以降、9年連続で1位の使い道です。「食品(ふだん食べるもの)」はこれまでの調査で最も高い5.6%でした。また、昨年の調査で初めて上位10位入りをした「投資信託」は、今年9位となりました。2021年・2022年の「夏のボーナスの使い道」でも、上位10位入りしており、「投資信託」という選択肢が、生活者の中で広がってきているのではないのでしょうか。

— 物価上昇を受けたボーナスの使い道の変化として、「貯金額を増やす」は、20代が最も高く約5割

次に、最近の物価上昇を受け、昨年と比べた「今年の冬のボーナスの使い道の変化」について、うかがいました。「使い道に変化がある」方は、全体で約6割となりました。年代別でみると、**年代が低いほど変化があると答えた割合が高く、20代が66.6%だったのに対し、60代以上は41.2%と、25.4ポイント差となりました。**

どのような変化があるかについては、全体で「**貯金額を増やす**」が**35.2%**と最も高く、次いで「**生活費に充てる金額を増やす**」が**24.0%**でした。ボーナスの使い道で、「食品(ふだん食べるもの)」が過去最高の5.6%となった背景には、物価上昇の影響がうかがえます。また、「**投資額を増やす**」は年代が低いほど割合が高く、**20代・30代・40代が10%を超えたのに対し、50代・60代以上は5%未満**でした。そのほか、「旅行やレジャーなど娯楽費を減らす」「嗜好品などの消費を控える」といった、出費を控えるという回答も年代が低い層の方が高くなっています。

「使い道に変化はない」との回答は、年代が高いほど、割合が高く、20代20.9%に対し、60代以上は24.2ポイント高い45.1%でした。

— ボーナスの支給金額の半分以上を貯金したい方は、全体で53.7%

今年のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方に、どの程度、貯金・預金したいかを聴取しました。全体で「50%～75%未満」が24.8%、「75%以上」が28.9%となり、**ボーナスの半分以上を貯金・預金したい方が半数を超えました。**また、今年のボーナスの使い道で「貯金額を増やす」と回答した方と、「そうでない(貯金額を増やすと回答していない)」方で、割合を比較しました。ボーナス支給金額の半分以上を「貯金・預金」したいとの回答は、「貯金額を増やす」派が56.0%、「そうでない」派が51.8%でした。大きな差はみられなかったものの、「貯金額を増やす」派の方が、**高い結果**となりました。

今年の冬のボーナスの使い道調査では、物価上昇の影響を受けて、ふだん食べる食品の購入意向が高まっている様子が見られました。また、若年層ほど、昨年の使い道と比べて、貯金額を増やしたり、出費を控えたり、と生活防衛意識が働いていることがうかがえました。

<「Pontaリサーチ」について>

PontaリサーチはLMが提供するリサーチサービスで、Ponta会員のうち「Pontaリサーチ」にご登録いただいているPontaリサーチ会員を対象に、自主調査や企業および団体などから依頼を受けたアンケートをご案内しています。Pontaリサーチ会員の皆様は、アンケートにご協力いただくことでPontaポイントをためることができます。

「Pontaリサーチ」サイトURL：<https://www.loyalty.co.jp/ponta-research/>



Ponta
RESEARCH